

実エンドウ新品種‘まめこぞう’の育成

○中島 純・長友 誠・向吉裕美子¹⁾・日高史子¹⁾・田中義弘・桑鶴紀充・永田茂穂
(鹿児島農総セ¹⁾ 鹿児島県農政部)

【目的】

鹿児島県の実エンドウは生産量が全国2位であり、県の重要な園芸作物として位置づけられている。現在、無霜地帯で主に栽培されている品種‘スーパーグリーン’は多収ではあるが、単価の高い収穫前期(11～2月)が低収で、食味が劣る等の問題がある。そこで、‘スーパーグリーン’より早期多収で良食味を目標に品種育成に取り組んだ。

【育成経過】

2002年2月に‘スーパーグリーン’を母親、‘00-23(現:あくねグリーン)’を父親として交配し、2002年5月に採種した。2003～2005年に無選抜で世代を促進し、2005年の秋まき作型でF₃世代を1,176個体に展開し、48個体を選抜した。

2006年には選抜した48個体を720個体に展開し、19個体を選抜した。選抜した個体は個体毎に1系統とし、2007年に19系統から5系統を選抜した。

2008年には5系統から4系統を選抜し、2009年にはF₇世代で現地適応性検定を実施した。

2010～2012年には選抜した系統の生産力検定と現地適応性検定を実施し、収量性と特性を検定した。その結果、目的の形質を持つ1系統が得られた。選抜した系統は‘まめこぞう’と命名し、2012年にF₉世代で育成を完了した。

【特性の概要】

1 育成品種の子な特性

- 1) 初花房節位は‘スーパーグリーン’より1～3節高いが、収穫開始期は指宿市では‘スーパーグリーン’より16日程度早く、阿久根市では‘スーパーグリーン’と同時期である。
- 2) 20節枝長は‘スーパーグリーン’より長く、‘あくねグリーン’と同程度である。
- 3) 可販収量は‘スーパーグリーン’および‘あくねグリーン’より初期から多収で、総収量も多い。
- 4) 莢の大きさは‘スーパーグリーン’と‘あくねグリーン’の間である。
- 5) 青実の大きさは‘スーパーグリーン’より大きく、‘あくねグリーン’並みである(データ省略)。
- 6) 食味は良食味品種‘あくねグリーン’と同程度で、‘スーパーグリーン’より優れる。

2 栽培適応地域および適応作型

無霜地帯の秋まき冬春どり作型

表1 初花房節位, 20節枝長, 収穫開始期(指宿市)

品種名	初花房節位(節)	20節枝長(cm)	収穫開始期
まめこぞう	12.5	117.3	11月24日
あくねグリーン	16.5	116.1	12月18日
スーパーグリーン	9.8	91.2	12月10日

注) 1. 播種期: 2012年9月25日

表2 初花房節位, 20節枝長, 収穫開始期(阿久根市)

品種名	初花房節位(節)	20節枝長(cm)	収穫開始期
まめこぞう	11.0	146.8	3月16日
あくねグリーン	15.7	140.7	3月20日
スーパーグリーン	10.2	107.5	3月16日

注) 1. 播種期: 2012年10月25日

表3 月別可販収量(指宿市) (単位: kg/a)

品種名	11月	12月	1月	2月	3月	4月	計
まめこぞう	3	57	75	94	129	2	361
あくねグリーン	0	31	56	92	111	2	291
スーパーグリーン	0	31	51	31	179	2	294

表4 旬別可販収量(阿久根市) (単位: kg/a)

品種名	3月中旬	3月下旬	4月上旬	4月中旬	4月下旬	計
まめこぞう	27	33	53	54	24	191
あくねグリーン	6	19	42	65	32	164
スーパーグリーン	13	29	47	57	32	178

表5 食味調査

品種名	指宿市	阿久根市
まめこぞう	2.8	2.7
あくねグリーン	3.0	3.0
スーパーグリーン	2.0	1.8

注) 1. 調理方法: ゆで(10分間)

2. あくねグリーンを3(基準)として、

1(劣る)～3(同等)～5(優れる)で評価した。

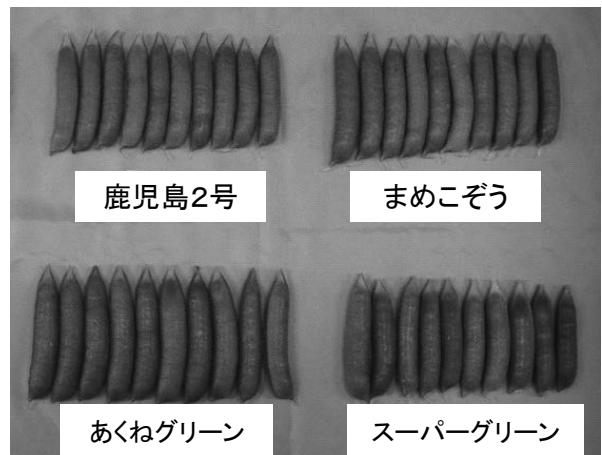


図1 莢の比較